

全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

文部科学省による平成20年度の全国学力・学習状況調査は、小学校6年生、中学校3年生を対象に、全国一斉に実施されました。都道府県別の結果や傾向については、すでに新聞等でとりあげられていますが、今号では福生市の結果についての分析と、それを踏まえた今後の授業改善の視点についてお知らせします。

1 調査の概要

- 実施日 平成20年4月22日
- 対象 小学校 6年生全員
中学校 3年生全員

●調査内容

- ①教科調査
 - ◆小学校 国語、算数各A・B
 - ◆中学校 国語、数学各A・B
- ②児童・生徒各意識調査

2 結果の概要

1 児童・生徒のよいところ

●意識調査の結果から福生市の子どもたちは学習に対する意識が高いことが分かりました。

特に、「好きな授業がある」「勉強が好き」「授業の内容が分かる」等の項目で都や国の平均より高い傾向がありました。

○福生市には、地域とのつながりを強くもち思いやりの心をもった子どもが多いことが分かりました。特に、小学校では地域行事への参加率が、中学校ではお年寄りや体の不自由な人を手助けした経験者の率が高い傾向がありました。

漢字を正しく書くことや文脈における意味を考えながら同音異義や同訓異義の漢字を使い分けすることに課題がありました。

○相手や目的に応じて話す力は概ね良好です。目的に応じて必要な情報を取り出して整理したり分かったことを書いたりすることに課題がありました。

○国語の調査から、構成に注意しながら話したり聞いたりする設問の正答率は、全国比でも良好な傾向でした。

2 児童・生徒の課題

○国語、算数・数学の調査から、基礎的な設問の正答率に比べて、応用的な設問の正答率が下がっている傾向がありました。

例えば、漢字の読み取りの正答率に比べると書き取りの正答率が下がってしまったり、算数では計算問題の正答率に比べ、情報を整理して筋道立てて説明したり答えを求めたりする問題の正答率が低い傾向がありました。

○記号を選択して答える設問よりも文章で記述する設問の方が正答率が低い傾向が明らかとなりました。

3 その他

○生活習慣の整っている子ども(朝食を毎日食べる、毎日同じ時刻に寝る等)は、国語、算数・数学の正答率が高い傾向が明らかとなりました。

3 調査結果について

小学校 国語

調査から分かったこと
漢字を読む力は概ね良好です。

○図形の構成要素に着目しながら作図したり、図形の性質を文章で表現するなどの学習を充実させます。

○日常生活で百分率が用いられる場面を学習の中で活用し、割合の理解を図ります。

○グラフや統計資料などを意図的に授業で活用し、資料から取り出した情報を用いて考える学習を充実させます。

○各学年の配当漢字を正しく書く指導を充実させます。繰り返し書く練習を取り入れるなど、各学年の配当漢字の指導を充実するとともに、前年度までの配当漢字の復習を適宜取り入れ、漢字の定着を図る指導を一層充実します。

○表やグラフを含む複数の資料から必要な情報を取り出す学習や取り出した情報を活用して適切に読んだり自分の意見を論述したりする学習を充実させます。

○文章全体における段落の役割や段落相互の関係に気を付けて文章を読んだり書いたりする学習を充実させます。

中学校 算数

○基礎的な四則計算の力は概ね良好です。小数のかけ算、わり算の計算を確実に解く力には課題がありました。

○図形の性質を理解し、説明する力には課題がありました。

○百分率の意味を理解することに課題がありました。

○複数の資料から必要な情報を整理して取り出し、筋道を立てて考える力に課題がありました。

○図形の構成要素に着目しながら作図したり、図形の性質を文章で表現するなどの学習を充実させます。

○日常生活で百分率が用いられる場面を学習の中で活用し、割合の理解を図ります。

○グラフや統計資料などを意図的に授業で活用し、資料から取り出した情報を用いて考える学習を充実させます。

○話の構成に注意しながら的確に聞き取ることは概ね良好です。文章を表現に注意しながら読み取り合った内容を指定された条件に合った表現に直して書くことや資料に書かれてある情報の中から必要な内容を選び伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことに課題がありました。

○筆者の論理の展開の仕方的確にとらえて文章の内容を読み取ることに課題がありました。

○文脈に即して正しく漢字を読むことは概ね良好です。漢字を正しく書くことについては課題がありました。

授業改善のポイント

○複数の文章などから目的に応じて情報を整理させたり、自分の考えをまとめたりする学習を充実させます。

○書き手のものの見方や考え方など書き手の論理の展開についての意図を的確にとらえることができる学習を充実させます。

○繰り返し書く練習を取り入れるなど、各学年の配当漢字の指導を充実するとともに、前年度までの復習を適宜取り入れるなど、漢字の定着を図る指導を充実します。また、漢字検定を中学一年で実施し、一層の定着を図ります。

○漢字の定着を図る指導を充実します。また、漢字検定を中学一年で実施し、一層の定着を図ります。

4 今後の取組

これらの結果を踏まえ、次のような取組を行います。

- 1 学習に対する肯定的な心構えを評価し、児童・生徒が主体的に取り組めるような授業づくりを一層進めます。
- 2 身に付けた学力の活用場面を多く設定し、応用的な学力の向上を図ります。
- 3 新しい学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、言語活動及び理数教育の充実を図ります。

小学校におけるサマーチャレンジ、中学校宿泊学習教育など、これまでにも増した学力向上策の充実を図ります。

また、各学校から委員の選出を行い、21年度に市としての「学力向上」の検討委員会を設置いたします。

教員の声

小学校国語について

小学校ではどの教科でも、①教科書を音読、視写②正しい話し方を意図した発言や発表③他者の意見を聞く④メモや意見を書くなどに力を入れています。国語でも①漢字の反復を解決できたという自信をもたせた②辞書の活用③暗唱④本の読み聞かせなどに取り組んでいます。繰り返し返して積み上げていく学習では「動機付け」と「成果の確認」が大切です。ご家庭でもお子様の学習の様子を確認し、よいところを認め励ましてあげてください。

(福生第七小学校 校長 西山 多恵子)

中学校国語について

中学校の国語の学習では、特に「論理的な文章の読解力や文章構成力」と「正しく漢字を書く」ことが課題だと考えています。そこで、書き手の論理の展開についての意図を的確にとらえることができる学習や段落相互の役割や構成を考えた文章を書くことができるような学習を充実させていきます。また、小テストや繰り返し学習を積み重ね、漢字の力を確実に定着させていきます。

(福生第二中学校 主幹教諭 山本 豊彦)

詳細は福生市ホームページをご覧ください。

問合せ

指導室 学務・指導係
☎5511・1948



中学校宿泊学習教室の様子